

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

小学 1 年生・道徳科

時数等

1 時間

目標・人権教育のねらい

- ・自分も周りの人もみんな守られていることを知り、一人で悩まず、困ったことがある時には、助けを求めようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・大切にされていることを感じるができるようにするとともに、「かなしいきもちはね、ふたをしなくていいんだよ」ということについて考え、話し合った。
- ・「一人じゃない」ということや「助けをもとめていい」ということについて考え、話し合った。

工夫した点

- ・感性や想像力を高める等の取組として続けている絵本の読み聞かせでは、子供の人権の学習につながる絵本を選書し、読み聞かせた。
- ・日々の関わりの中で、常に自分や周りの誰もが大切にされていると実感できるように努めた。

他教科との
関連

- ・学級活動「『自分も相手も大切にするかわりに必要なことは』～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～」と題して副島賢和氏から「ひとりじゃない」ということを学んだ。

事業成果

- ・知識的側面：つらい時や困った時、頼れる人がいることを知っている。 90% → 100%
- ・価値・態度的側面：自分のことを大切にしている。 60% → 80%
自分のことが好きである。 80% → 100%
- ・技能的側面：誰かがつらい思いや悲しい思いをしている時、声をかけたりいっしょに考えたりしている。 100% → 100%
誰かが頑張っている時、いつも応援している。 60% → 90%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

小学 1 年生・道徳科

時数等

1 時間

目標・人権教育のねらい

- ・女の子、男の子という概念にとらわれず、自分らしさが大切であることに気付き、一人一人の個性を認め合って生活しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・ランドセルを選んだ時のことを思い出し、ランドセルの色を選んだ理由について考え、話し合った。
- ・自分や友達のランドセルの色を比べ、「女の子の色」「男の子の色」について考え、話し合った。
- ・男女関係なく自分の好きな色を選ぶことの大切さについて考え、話し合った。

工夫した点

- ・身近なランドセルの色をきっかけとして、「女の子だから〇〇」「男の子だから〇〇」ということについて考えた。
- ・毎日保護者宛へ発行している学級通信で、学習のねらいや児童の様子を伝えたり、保護者からメッセージをもらったりした。

他教科との
関連

- ・生活科「じぶんでできるよ」で、「おうちの人もにっこにこ大きくせん！」として家庭で自分ができることを考え、実践し、男女関係なく互いに支え合っていくことの大切さを学んだ。

事業成果

- ・知識的側面：女の子、男の子関係なく、自分らしくいられることが大切なことだ。 90% → 100%
- ・価値・態度的側面：女の子、男の子関係なく、なかよく遊んだり、協力したりしている。 100% → 100%
- ・技能的側面：人が大切にしているものや考えをとても大切にしている。 70% → 90%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等小学 2 年生
学級活動

時数等

4 時間

目標・人権教育のねらい

- ・高齢者の思いや願いを大切にし、あたたかい言葉がけをする等思いやりをもって、積極的に関わろうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・「おばあちゃんの手」（ひかり）を学習し、高齢者の知恵や技術、誠実な生き方に触れ、高齢者を大切にしようという気持ちをもった。（1時間）
- ・地域の高齢者が集う「本町サロン」に参加し、一緒に歌ったり、高齢者の方と関わったりする機会をもった。（3時間）

工夫した点

- ・高齢者の方と実際に関わる活動に取り組むことで、高齢者と普段接する機会の少ない児童も接し方を理解できるようにした。
- ・絵本を通して、高齢者の気持ちに共感し、理解することで、自分たちに何ができるのかを具体的にイメージし、本町サロンや家庭で実践した。

他教科との
関連

- ・道徳科で絵本の読み聞かせを通じて、高齢者の気持ちを想像し、自分たちにできることや関わり方を考えた。

事業成果

- ・知識的側面：高齢者の方はいろんなことをよく知っていると思う。 57% → 87%
- ・価値・態度的側面：自分から高齢者の方と関わるのがよくできる。 36% → 69%
- ・技能的側面：自分から高齢者とコミュニケーションをとることができる。 69% → 100%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等小学 3 年生
学級活動

時数等

4 時間

目標・人権教育のねらい

- ・互いの違いを認め合い、個性を尊重しながら行動しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・聴覚に障がいのある人について、資料をもとに考えたり、話し合ったりした。（1時間）
- ・ゲストティーチャーを迎え、手話について学んだ。（1時間）
- ・学習を振り返り障がいのある人とのコミュニケーションの仕方を話し合った。（1時間）
- ・「病気じゃないんだけどなあ」（ひかり）を用いて、障がいのあるなしにかかわらず、共に生きがいを感じながら生きていくために、自分に何ができるか考えた。（1時間）

工夫した点

- ・聴覚に障がいがあるとは、どのようなことか、資料からだけでなく、実際に周りからの音が聞こえない状態で話し合いをしたり、コミュニケーションの仕方を考えたりした。
- ・手話体験は、初めから、聴覚に障がいがある方とやりとりをするのは難しいので、まずは手話通訳の方を介して、やりとりをすることから始めた。
- ・「病気じゃないんだけどなあ」（ひかり）の学習前には、電動車いすが障がいのある人にとって大切なものであることを知らせた。

他教科との
関連

- ・国語科の「わたしと小鳥とすずと」で友達のよさや違いについて学習した。

事業成果

- ・知識的側面：様々な考えや個性をもつ人々と暮らしていることを理解している。 70% → 80%
- ・価値・態度的側面：障がい者に関する人権問題を解消するために進んで行動しようとしている。 50% → 60%
- ・技能的側面：人の話や意見を最後までよく聞くことができる。 70% → 75%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

小学 6 年生・社会科

時数等

3 時間

目標・人権教育のねらい

- ・差別に立ち向かった人々の思いに共感し、互いを認め、仲間と共に差別解消へ向けて進んで行動する態度を育てる。

実施した内容

- ・「渋染一揆」の学習で、差別の中で生きた人々はどのような思いや願いで一揆を起こしたのか考えた。（2 時間）
- ・人々が支え合い、団結して解決していく姿勢から、学級の中でも相手の立場や気持ちを考え、友達と助け合いながら生活することの大切さについて学んだ。（1 時間）

工夫した点

- ・児童が正しい知識を得られるために、部落差別に関わる時代背景について揭示し、振り返ることができるようにした。
- ・別段御触書に対して児童が嘆願書を書くことで、差別を受けた人々の思いや願いに気付くことができるようにした。
- ・グループで話し合い、意見をまとめる時間を設けることで、主体的に取り組むことができるようにした。

他教科との
関連

- ・社会科「幕府の政治と人々の暮らし」では、江戸時代の人々の暮らしと文化について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：現在もなお部落差別があることが分かっている。 64% → 100%
- ・価値・態度的側面：同和問題を解決するために行動しようと思う。 30% → 100%
- ・技能的側面：同和問題について理解しようとする事ができる。 80% → 100%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

小学 5 年生・道徳科

時数等

3 時間

目標・人権教育のねらい

- ・アイヌの人々に対する歴史、文化について学び、差別の実態を正しく理解するとともに、アイヌの人々の思いや願いを知り、認め合おうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・アイヌ文化活動アドバイザーの講師からアイヌの歴史や文化、差別の実態について学習した。（1時間）
- ・アイヌの民族衣装を着て、アイヌに伝わる歌を歌ったり舞踊を体験したりした。（1時間）
- ・資料「アイヌの民族、歴史と現在」を読み、アイヌの人々の気持ちを考え、自分たちにできることを話し合った。（1時間）

工夫した点

- ・社会科で学習したことや、講師から聞いたことを関連させて、先住民族の権利について理解し、自分たちは何をすべきかを考えることができた。
- ・アイヌの文化活動をされている講師の具体的な経験や、アイヌ民族の歴史と文化について話をしていただき、アイヌ民族の人々が今を生きる姿や思い、差別の実態について現実味をもって感じ取らせた。

他教科との
関連

- ・社会科「自然とともに生きる人々の暮らし～アイヌの人たち～」でアイヌの人たちの生活や文化について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：アイヌの人々に対する歴史、文化について知っている。 20%→100%
- ・価値・態度的側面：アイヌの人々に関する人権問題を解消するために行動しようとする事ができる。 0%→100%
- ・技能的側面：自分たちとは異なる文化について理解しようとする事ができる。 20%→94%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等小学 4 年生
学級活動

時数等

5 時間

目標・人権教育のねらい

- ・世界には様々な文化や習慣があることや、外国から来た人の思いを知り、外国から来た人の気持ちに寄り添って自分のできることを考えて行動しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・世界の文化や習慣についての調べ学習やALT交流会、インドネシア出身の方の話を聞くことを通して、世界にはさまざまな文化や習慣があることを学んだ。（4時間）
- ・外国から来た人たちとの交流を通して学んだことをもとに、外国から来た人が安心して過ごすために自分たちにできることを考えた。（1時間）

工夫した点

- ・外国から来た人と交流する機会を多く設定し、自己紹介や質問タイムを通して積極的に関わられるようにした。
- ・調べ学習やALT交流会で学んだこと等の体験をもとに外国と日本との違いを考えさせ、日本の人にとってのあたりまえは、外国から来た人にとってはあたりまえではなくなることを実感できるようにした。

他教科との
関連

- ・外国語活動「ALTと交流会をしよう」では、アメリカ・カナダ・イギリス出身のALTから話を聞き、出身国と日本との違いや日本に来て困ったことを学んだ。
- ・道徳科「ブラジルからの転入生」の学習では、一面的な価値観で相手を見てしまうと、本当の友達のよさは分からないことを学んだ。

事業成果

- ・知識的側面：外国から来た人が日本でどんなことに困っているか知っている。 30%→100%
- ・価値・態度的側面：外国の文化や習慣に興味・関心があり、知りたいと思う。 60%→81%
- ・技能的側面：外国から来た人が困っていたら、自分から声をかけることができる。 60%→66%

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

H I V 感染者等

対象学年・
取り扱った教科等小学5年生
学級活動

時数等

2 時間

目標・人権教育のねらい

- ・ HIV感染者やエイズについて正しく理解し、自分たちにできる感染を予防する方法を知るとともに、感染者に対する偏見や差別をなくしていこうとする意欲と態度を養う。

実施した内容

- ・ HIVやエイズについて、病気の症状や感染経路、予防について知り、自分たちの日常生活において感染を予防できることを学習した。（1時間）
- ・ HIV感染者やエイズについての誤った考え方や偏見をなくし、相手を尊重する態度や行動が大切であることを話し合った。（1時間）

工夫した点

- ・ 発達段階に応じた指導に考慮しエイズという病気についてはあらましを伝え、通常の日常生活を送る限り感染しない病気であり、感染の仕方が特定されることを確認し、不安や偏見をもたないようにした。
- ・ 新型コロナウイルスなどの感染症については知っていてもHIVやエイズについて知っている児童が、学習前は誰もいなかった。断片的な知識や情報が入っておらず誤った概念や考えが全くない状態であったので、病気についての説明を児童に合わせて具体的な統計資料を用意するなど精選して行った。
- ・ 小学生向けのHIVやエイズに関する教材や資料はあまり多くない。そこで、日本学校保健会のホームページやエイズ予防財団の動画等を活用し、HIVやエイズに対する関心を高め、意欲的に学習に取り組めるようにした。

他教科との
関連

- ・ 学級活動の時間において「かぜやインフルエンザなどの感染症の予防」について学習した。

事業成果

- ・ 知識的側面：HIV感染者やエイズについて知っている。 0% → 100%
- ・ 価値・態度的側面：HIV感染者に関する人権問題を知り、自分に何ができるか考えることができる。 0% → 100%
- ・ 技能的側面：HIV感染者に対しての問題解決に向けて周りの人と協力して行動することができる。 0% → 90%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

小学 6 年生・社会科

時数等

2 時間

目標・人権教育のねらい

- ・ハンセン病に対する誤った認識や差別の歴史について知り、正しく理解する。
- ・知ろうとしないことや無関心が偏見や差別につながっていることに気付かせる。
- ・自ら考え、行動する態度を育てる。

実施した内容

- ・徳島県人権教育指導員を講師に招き、ハンセン病の歴史と無知が差別を生むことについて学習した。（1時間）
- ・誤った考えのある社会で生きるハンセン病患者の人々の思いについて考え、自分たちが差別解消の主体者になるためにはどうすればよいか話し合った。（1時間）

工夫した点

- ・ハンセン病について、正しい知識を得られるように、講師を招いて話をしてもらった。また、ハンセン病元患者の思いを理解するために、ハンセン病元患者やその家族の当時の話をDVDで観た。
- ・児童の意見を可視化できるように、タブレットにそれぞれの考えを記入した。友達がどのような意見をもっているのか共有しやすくなり、全員が意見を伝え合うことができた。

他教科との
関連

- ・道徳科「かおりの決心」では、周りに流されず、一人一人が良心に従って、自分の考えをもって行動できるような集団になるためにどのようにすればよいか学習した。

事業成果

- ・知識的側面：ハンセン病について知っている。 30% → 100%
- ・価値・態度的側面：容姿や健康状態で他者を差別しない。 20% → 80%
- ・技能的側面：ハンセン病や他の病気に関わることで、何が人権侵害にあたるかを見極めることができる。 40% → 80%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

刑を終えて出所した人

対象学年・
取り扱った教科等

全学年・特別活動

時数等

2 時間

目標・人権教育のねらい

- ・ 過ちを犯してしまった人に対する人権侵害について考えさせ、今を懸命に生きていることを理解し、偏見をもったり、差別をすることなく接する態度を養う。

実施した内容

- ・ 全校朝会や集会活動、終業式での学校長からの講話で、身近な生活の中にある偏見や差別（新型コロナウイルス感染症、刑を終えて出所した人等）について考えさせた。
- ・ 関係機関による授業（交通安全教室、生活安全教室、薬物乱用防止教室等）を取り入れ、客観的なものの見方や考え方を養う実践的な学習を行った。

工夫した点

- ・ 関係機関と連携し、ゲストティーチャーを招いて、身近な生活の中で起こりうる事象について自分事として考えられるようにした。
- ・ 自らが失敗したことを反省し、改善しようとしている人を受け入れられる態度が身に付くように、話の内容を考えた。

他教科との
関連

- ・ 道徳科において、全学年で道徳内容項目「公正、公平、社会正義」を学習し、誰に対しても差別することや偏見をもつことなく公正、公平な態度で接することを学習した。

事業成果

- 【児童の変容】
- ・ 知識的側面：関係機関から招いた講師から専門的な内容の話聞き、偏見や差別のない社会のあり方について理解できた。
 - ・ 価値・態度的側面：間違った情報が偏見につながり、そこから生まれる差別が間違いであることに気付き、自分たちの言動について振り返ることができた。
 - ・ 技能的側面：日常生活において自他を尊重した言葉使いを意識する姿がみられた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

犯罪被害者等

対象学年・
取り扱った教科等小学 2 年生
学級活動

時数等

1 時間

目標・人権教育のねらい

- ・「プライベートゾーン」という言葉や、自分の体も他の人の体も大切であるということが分かる。
- ・性暴力の加害者・被害者にならないための対処方法を身に付けている。

実施した内容

- ・文部科学省の教材「生命（いのち）の安全教育」を用いて、「プライベートゾーン」について知る。
- ・自分だけの大切なところを見せたり、触らせたりしないこと、また他の人の大切なところを見たり、触ったりしないというルールを確認する。
- ・自分の体を触られて嫌な気持ちになる場面を考え、どうしたらいいのか対策を考える。

工夫した点

- ・自分や相手の体を大切にできていない場面を絵を用いて具体的に示し、普段の生活と結びつけて考えられるようにした。
- ・自分の体を触られて嫌な気持ちになる場面について、自分ならどうするか実践的に考えるようにした。

他教科との
関連

- ・体育科「水あそび」で水着に着替える際に、自分の大切なところを見られないようにタオルでかくすこと、他の人の大切なところを見ないように指導した。

事業成果

- ・知識的側面：自分の体も他の人の体も大切であるということが分かっている。 80% → 100%
- ・価値・態度的側面：自分だけの大切なところは、他の人に見せたり、触らせたりしないようにできる。 63% → 100%
- ・技能的側面：嫌なことをされたら、「嫌だ」「やめて」と断ることができる。 82% → 94%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

インターネットによる
人権侵害対象学年・
取り扱った教科等小学 4 年生
学級活動

時数等

2 時間

目標・人権教育のねらい

・インターネット上でのコミュニケーションについて考えることを通して、普段の生活でも相手を思いやった発言や行動をしていこうとする態度を育てる。

実施した内容

・ SNS上のやりとりの例を示し、送られてきたメッセージが適切かどうかを考え、相手を誹謗中傷するような内容が書き込まれたとき、自分ならどのように返信するのか考えた。（1時間）
・ SNSを使ったグループトークでは、特定の人を本人に分からないように仲間からはずす機能があることを学習し、互いに気持ちよく SNS を使うためにはどうすればよいのか話し合った。（1時間）

工夫した点

・ 黒板をスマートフォン等の画面に見立て、ふきだしにメッセージを書いて掲示する等、実際の SNS 上のやりとりを想像しやすいようにした。
・ 自分で考えた後にグループで話し合う時間を設け、全員が意見を伝え合うことで、考えを深められるようにした。

他教科との
関連

・ 道徳科「深く息をすって」の学習では、インターネット上やオンラインゲームでの言動が過激になりがちであることについて理解した。

事業成果

・ 知識的側面：インターネットや SNS を使うときに気をつけることを知っている。 60% → 90%
「ネットいじめ」について知っている。 10% → 90%

・ 価値・態度的側面：インターネット上や SNS に自分や友達の悪口を書かれていたら、なくすための行動をとることができる。 50% → 80%

・ 技能的側面：家の人とスマートフォンやゲーム機を使うときのルールを決め、それを守っている。 50% → 80%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

北朝鮮当局による
拉致問題等

対象学年・
取り扱った教科等

小学 6 年生・社会科

時数等

2 時間

目標・人権教育のねらい

- ・拉致問題が深刻な人権侵害であることを理解し、すべての人の生命と自由が尊重されるべきという人権意識を高める。
- ・平和な社会の実現に向けて、自分たちにできることを考え、行動する態度を養う。

実施した内容

- ・アニメ「めぐみ」を視聴し、拉致被害者の思いについて考え、自分たちにできることは何か考えた。（2時間）

工夫した点

- ・拉致問題の解決に向けて、自分たちにできることは何か、グループで意見交換を行うことで、拉致問題の深刻さを理解し、人権の大切さを学ぶことができたようにした。
- ・今も帰りを待つ被害者の家族がいることを紹介し、その人たちの思いを考えた。

他教科との
関連

- ・社会科「世界の中の日本」では、様々な国と日本の関わりについて学習した。

事業成果

- ・知識的側面：北朝鮮当局による拉致問題等に関する人権問題について知っている。 35%→100%
- ・価値・態度的側面：困っている人がいたら、進んで助けることができる。 90%→100%
- ・技能的側面：相手の立場に立って、気持ちを受け止め、共感的に理解することができる。 80%→100%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等小学 3 年生
道徳科・学級活動

時数等

2 時間

目標・人権教育のねらい

- ・一人一人の個性を認め合い、違いを理解し合って生活しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・「りつとにじのたね」（光文書院）を用いて、自分と相手には違いがあるということに気付くとともに、違いを生かす合うことについて、考えたり話し合ったりした。（1時間）
- ・友達のよいところをさがし、伝え合う活動を行った。（1時間）

工夫した点

- ・自分と友達との違いを出し合い、外見だけでなく、好みや得意なことなど様々なことが違っていることに気付くように話し合った。
- ・自分以外のクラス全員分のよいところをメッセージにしてプレゼントし、感想を伝え合った。

他教科との
関連

- ・自分らしさを大切にすることについて考える絵本の読み聞かせを行い、継続的に意識付けを行った。

事業成果

- ・知識的側面：自分と友達には違いがあり、その違いを理解して生活していくことのよさが分かる。 65% → 80%
- ・価値・態度的側面：自分や友達の違いを受け止め、理解し合って生活していこうとする意欲をもつ。 80% → 90%
- ・技能的側面：友達の意見を聞いて、自分の思いや考えを伝えることができる。 70% → 75%

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

徳島県

学校名

牟岐町立牟岐小学校

人権課題

その他（災害時における
人権問題）対象学年・
取り扱った教科等小学 5 年生
総合的な学習の時間

時数等

3 時間

目標・人権教
育のねらい

- ・町のみんなの命を守るためには、人と人とのつながりが大切であることを理解し、仲間とつながる中で、自分にできることを考え、行動しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・災害が起きた時の避難所での生活について調べ、要配慮者に起こりうる困りごとや課題を話し合う。相手によって困難の質や度合いに違いがあることを学ぶ。（2時間）
- ・避難所に避難してきた要配慮者の立場に立って、その人たちに対して、自分にできることを考え、学級の友達と伝え合う。（1時間）

工夫した点

- ・高齢者疑似体験装具を身に付けて、日常生活の場面での不自由さについて体験したり、こども園に行き1・2歳児の園児と交流する機会を設定したりすることで、身体的な困難さや支援する立場の人の大変さを感じることができた。
- ・障がい者や外国の方の話を直接聞くことで、それぞれの人が感じている避難所生活に対する心配や困りごとに触れることができた。
- ・防災デイキャンプの体験をして、防災意識が高まり、避難所生活に対して具体的なイメージがもてるようになり、自分に何ができるかを具体的に考えさせることができた。

他教科との
関連

- ・総合的な学習の時間「つながり つなげよう 学ぼうさい2025 in牟岐」をテーマに防災と自分との関わりについて考え、地域に発信した。

事業成果

- ・知識的側面：災害が起こった時にとるべき行動を知っている。 70%→100%
- ・価値・態度的側面：避難所における人権課題の解決方法について考えることができる。 40%→100%
- ・技能的側面：命を守るために、避難所においてまわりの人と協力をして行動することができる。 54%→94%